

特集

理系分野での男女共同参画



理系分野において女性が少ない現状を考える

性別による、向き不向き？

性別によって、得意または不得意はあるのでしょうか。最近の研究によると、空間把握能力は男性が高く、協調性は女性が高いなど、男女の差が認められた分野もありますが、実は、リーダーシップのスタイルや数学の能力などには差がないと言われています。しかし、日本の企業

における管理職の男女比は、依然として大きな差があるのが現状です。また、日本は男女ともに数学が得意な人が多い国であるにもかかわらず、理系に進む女性が少ないことが指摘されており、世界的に見ると非常にめずらしいと言われています。能力に男女差はないはずなのに、なぜなのでしょう。その背景には、「女性は数学が苦手、理系に進むと苦労す

る」などといったネガティブな固定観念が働き、パフォーマンスの低下を招いているのかもしれない。実際、「女性は数学が苦手」だと思っ母親の娘ほど理系進学率が低いという調査結果も出ています。また、理系は男性が多いという現状や「男は理系、女は文系」という思い込みにより、思春期を迎えた女子生徒が男っぽく見られるのを嫌って、理系科目に苦

手意識を持つことも推測されます。女性を取り巻く環境を変えていくには、社会全体のジェンダー観のアップデートが不可欠だと言えます。



世界を変えた50人の女性科学者たち

レイチェル・イグノトフスキー 著
野中 モモ 訳
(創元社)



科学・技術・工学・数学 (STEM) の分野で素晴らしい業績を残した女性科学者50人を、チャーミングなイラストとともに紹介しています。

ジェンダーと脳

性別を超える脳の多様性
ダフナ・ジョエル、ルバ・ヴィハンスキ 著
鍛原 多恵子 訳
(紀伊國屋書店)



神経科学者が、科学的、具体的な事例を挙げて、性別とジェンダーに対する固定観念を多角的な観点から考察しています。



おすすめ本

